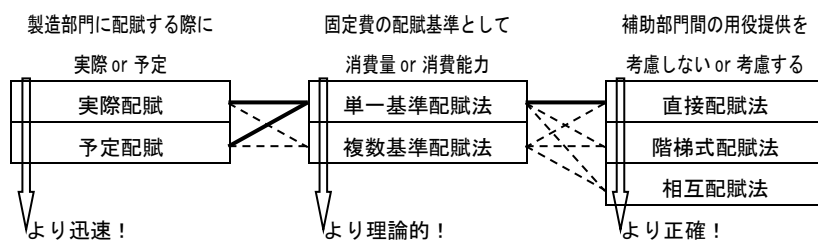


18 単一基準配賦法

[短A/論A]

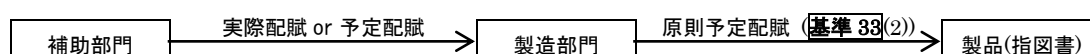
~⑦ Master Piece~

☑ 組み合わせの全パターンを整理！



☑ 単一基準配賦法：補助部門の変動費も固定費も、「消費量」で、製造部門に配賦する方法

- ⇒ (1) [原則] 補助部門の変動費及び固定費を製造部門ではすべて変動費とする ⇔ [容認] 補助部門の変動費と固定費の区分を製造部門でも引き継ぐ
 (2) まずは年度予算を作成し、次に月間実績を計算する
 (3) 予定配賦をした場所で差異が生じ、差異分析(シュラッター図)が必要となる



問題

以下の資料に基づき、各問に答えなさい。

- 当工場では、製造部門として切削部門及び組立部門を、補助部門として動力部門を設定し、製造間接費の配賦を、部門別に機械運転時間に基づく予定配賦率を用いて行っている。
- 年間予算データ

(1) 部門費額

切削部門		組立部門		動力部門	
変動費	固定費	変動費	固定費	変動費	固定費
1,080,000 円	1,800,000 円	960,000 円	840,000 円	720,000 円	720,000 円

(2) 動力消費量及び消費能力

	切削部門	組立部門
動力消費量	7,200kwh	7,200kwh

(3) 基準操業度

	切削部門	組立部門
機械運転時間	36,000 時間	24,000 時間

3. 月間実績データ

(1) 部門費額

切削部門		組立部門		動力部門	
変動費	固定費	変動費	固定費	変動費	固定費
62,000 円	118,000 円	93,000 円	102,000 円	60,000 円	90,000 円

(2) 動力消費量及び消費能力

	切削部門	組立部門
動力消費量	600kwh	150kwh

(3) 実際操業度

	切削部門	組立部門
機械運転時間	2,500 時間	400 時間

問1 補助部門費の配賦を、単一基準配賦法により実際配賦を行った場合に各部門で生じうる差異の金額を求めなさい。なお、補助部門における変動費と固定費の区分を製造部門でも引き継ぐこととする。(問2も同様)

問2 補助部門費の配賦を、単一基準配賦法により予定配賦を行った場合に各部門で生じうる差異の金額を求めなさい。

解答解説

(単位：円)

問 1

1. 年間予算製造部門費の集計 (単一基準)

摘要	切削部門		組立部門		動力部門	
	変動費	固定費	変動費	固定費	変動費	固定費
部門費	1,080,000	1,800,000	960,000	840,000	720,000	720,000
動力部門費	Ⓔ 7,200kwh 360,000	Ⓔ 7,200kwh 360,000	Ⓔ 7,200kwh 360,000	Ⓔ 7,200kwh 360,000	← @50/kwh	← @50/kwh
製造部門費	1,440,000	2,160,000	1,320,000	1,200,000		
	↓ ÷ 36,000MH		↓ ÷ 24,000MH			
予定配賦率	@40/MH	@60/MH	@55/MH	@50/MH		

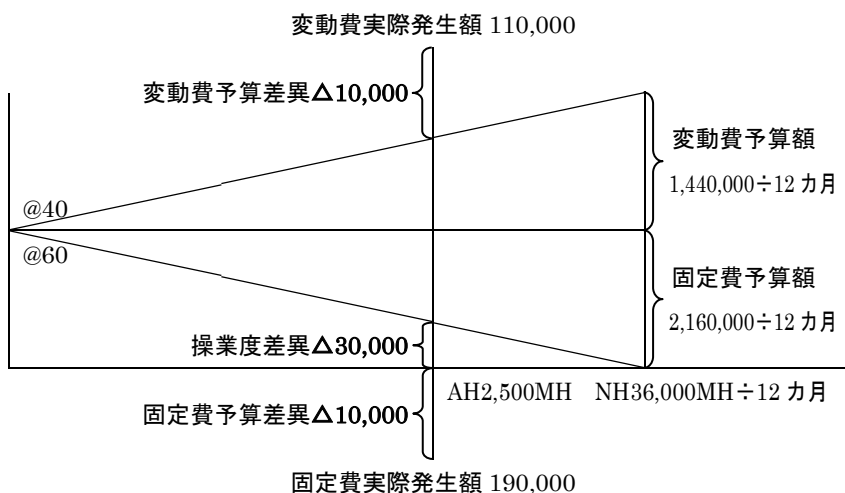
2. 単一基準+実際配賦

(1) 月間実績製造部門費の集計

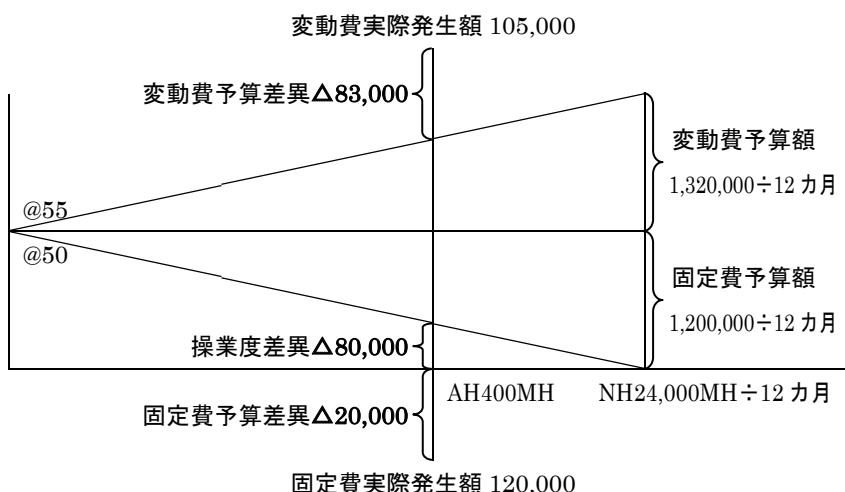
摘要	切削部門		組立部門		動力部門	
	変動費	固定費	変動費	固定費	変動費	固定費
部門費	62,000	118,000	93,000	102,000	60,000	90,000
動力部門費	⊕ 600kwh 48,000	⊕ 600kwh 72,000	⊕ 150kwh 12,000	⊕ 150kwh 18,000	← 実配@80/kwh	← 実配@120/kwh
製造部門費	110,000	190,000	105,000	120,000		

(2) 差異分析

① 切削部門のシュラッター図



② 組立部門のシュラッター図



3. 解答数値の算定

切削部門： 変動費予算差異△10,000、固定費予算差異△10,000、操業度差異△30,000

組立部門： 変動費予算差異△83,000、固定費予算差異△20,000、操業度差異△80,000

問2

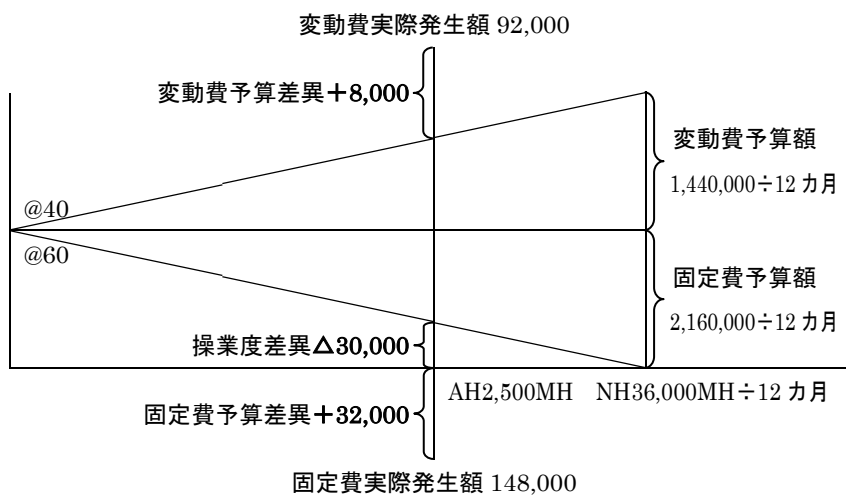
1. 単一基準＋予定配賦

(1) 月間実績製造部門費の集計

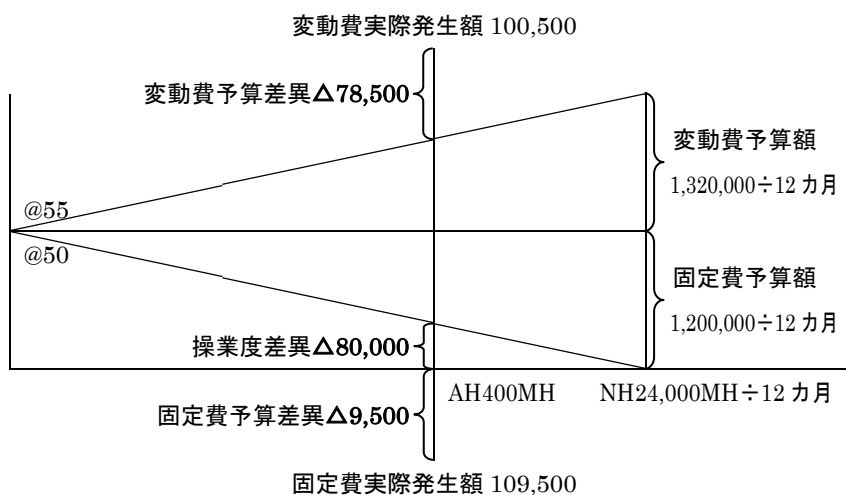
摘要	切削部門		組立部門		動力部門	
	変動費	固定費	変動費	固定費	変動費	固定費
部門費	62,000	118,000	93,000	102,000	60,000	90,000
動力部門費	⊕ 600kwh 30,000	⊕ 600kwh 30,000	⊕ 150kwh 7,500	⊕ 150kwh 7,500	← 予配@50/kwh	← 予配@50/kwh
製造部門費	92,000	148,000	100,500	109,500		

(2) 差異分析

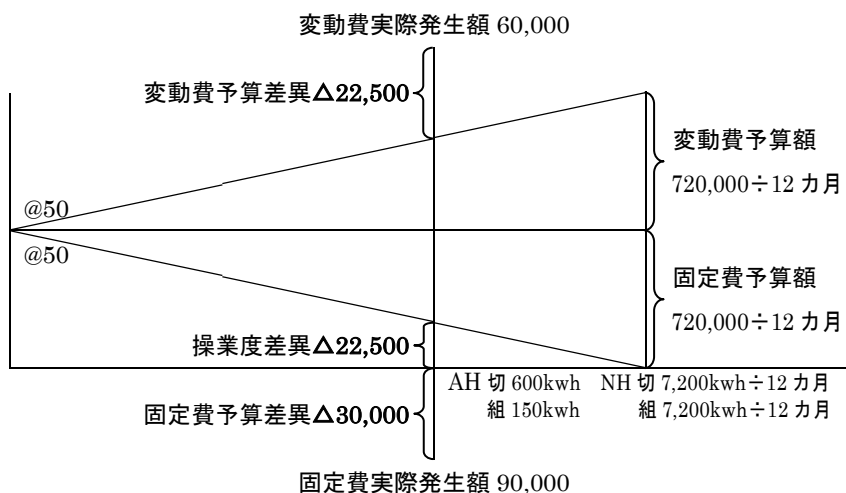
① 切削部門のシュラッター図



② 組立部門のシュラッター図



③ 動力部門のシュラッター図



2. 解答数値の算定

切削部門：変動費予算差異+8,000、固定費予算差異+32,000、操業度差異△30,000

組立部門：変動費予算差異△78,500、固定費予算差異△9,500、操業度差異△80,000

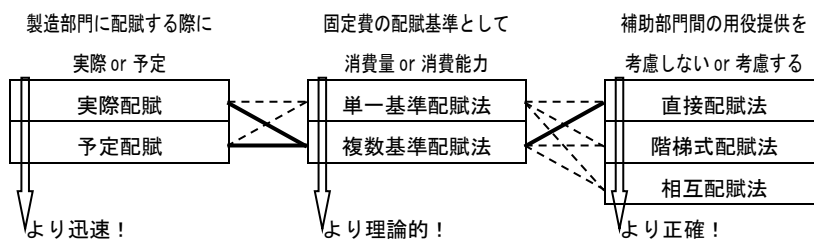
動力部門：変動費予算差異△22,500、固定費予算差異△30,000、操業度差異△22,500

19 複数基準配賦法

[短A/論A]

~Master Piece~

☑ 組み合わせの全パターンを整理！

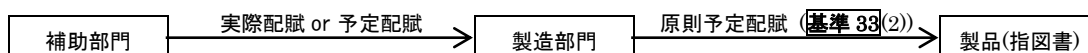


☑ 複数基準配賦法：補助部門の変動費は「消費量」で、固定費は「消費能力」で、それぞれ製造部門に配賦する方法

⇒ (1) 単一基準配賦法のような原則容認はなく、必ず補助部門の変動費と固定費の区分を製造部門でも引き継ぐ

(2) まずは年度予算を作成し、次に月間実績を計算する

(3) 予定配賦をした場所で差異が生じ、差異分析(シュラッター図)が必要となる



(4) 複数基準+予定配賦の場合、固定費は年間予定額÷12カ月を製造部門に賦課することから、補助部門で操業度差異は生じない

問題

以下の資料に基づき、各問に答えなさい。

1. 当工場では、製造部門として切削部門及び組立部門を、補助部門として動力部門を設定し、製造間接費の配賦を、部門別に機械運転時間に基づく予定配賦率を用いて行っている。

2. 年間予算データ

(1) 部門費額

切削部門		組立部門		動力部門	
変動費	固定費	変動費	固定費	変動費	固定費
1,080,000 円	1,800,000 円	960,000 円	840,000 円	720,000 円	720,000 円

(2) 動力消費量及び消費能力

	切削部門	組立部門
動力消費量	7,200kwh	7,200kwh
動力消費能力	9,000kwh	13,500kwh

(3) 基準操業度

	切削部門	組立部門
機械運転時間	36,000 時間	24,000 時間

3. 月間実績データ

(1) 部門費額

切削部門		組立部門		動力部門	
変動費	固定費	変動費	固定費	変動費	固定費
62,000 円	118,000 円	93,000 円	102,000 円	60,000 円	90,000 円

(2) 動力消費量及び消費能力

	切削部門	組立部門
動力消費量	600kwh	150kwh

(3) 実際操業度

	切削部門	組立部門
機械運転時間	2,500 時間	400 時間

問1 補助部門費の配賦を、複数基準配賦法により実際配賦を行った場合に各部門で生じる差異の金額を求めなさい。

問2 補助部門費の配賦を、複数基準配賦法により予定配賦を行った場合に各部門で生じる差異の金額を求めなさい。

解答解説

(単位：円)

問 1

1. 年間予算製造部門費の集計 (複数基準)

摘要	切削部門		組立部門		動力部門	
	変動費	固定費	変動費	固定費	変動費	固定費
部門費	1,080,000	1,800,000	960,000	840,000	720,000	720,000
動力部門費	Ⓔ 7,200kwh 360,000	能力 9,000kwh 288,000	Ⓔ 7,200kwh 360,000	能力 13,500kwh 432,000	← @50/kwh	← @32/kwh
製造部門費	1,440,000	2,088,000	1,320,000	1,272,000		
	↓ ÷ 36,000MH		↓ ÷ 24,000MH			
予定配賦率	@40/MH	@58/MH	@55/MH	@53/MH		

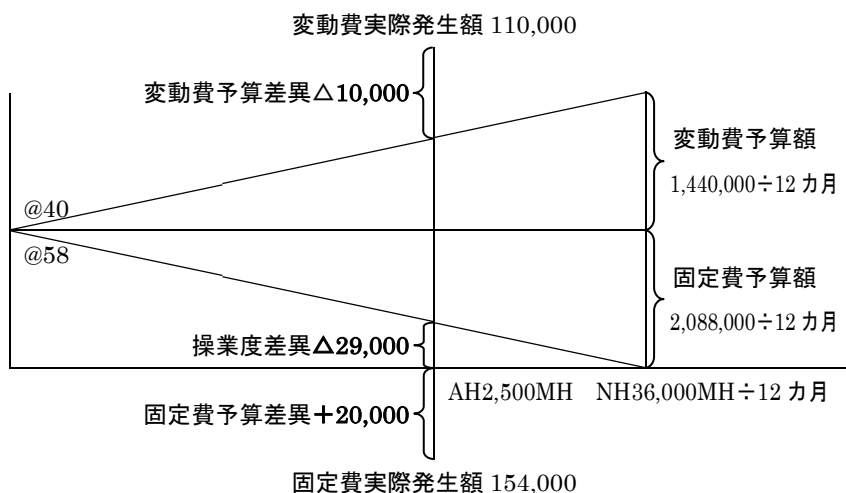
2. 複数基準+実際配賦

(1) 月間実績製造部門費の集計

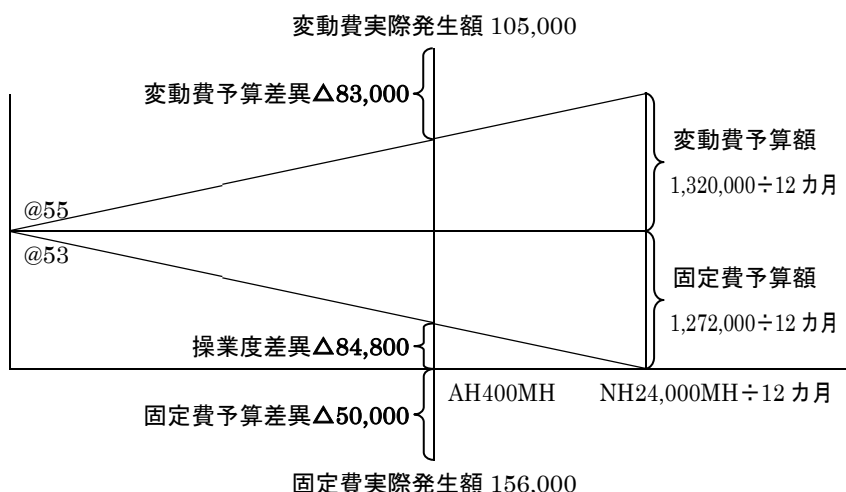
摘要	切削部門		組立部門		動力部門	
	変動費	固定費	変動費	固定費	変動費	固定費
部門費	62,000	118,000	93,000	102,000	60,000	90,000
動力部門費	⊖ 600kwh 48,000	能力 9,000kwh 36,000	⊖ 150kwh 12,000	能力 13,500kwh 54,000	← 実配@80/kwh	← 実配@4/kwh
製造部門費	110,000	154,000	105,000	156,000		

(2) 差異分析

① 切削部門のシュラッター図



② 組立部門のシュラッター図



3. 解答数値の算定

切削部門： 変動費予算差異△10,000、固定費予算差異+20,000、操業度差異△29,000

組立部門： 変動費予算差異△83,000、固定費予算差異△50,000、操業度差異△84,800

問2

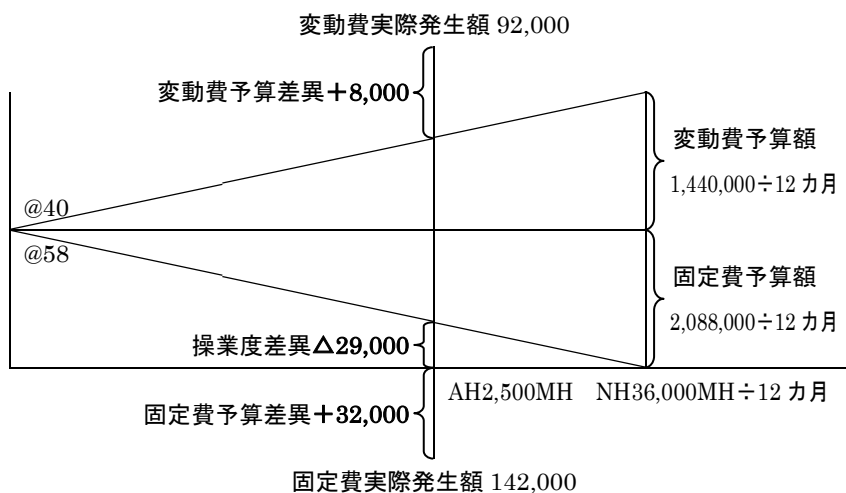
1. 複数基準+予定配賦

(1) 月間実績製造部門費の集計

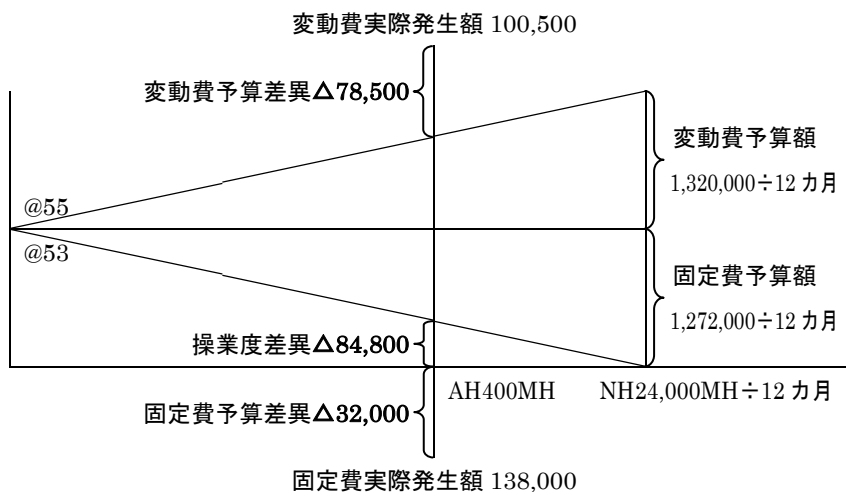
摘要	切削部門		組立部門		動力部門	
	変動費	固定費	変動費	固定費	変動費	固定費
部門費	62,000	118,000	93,000	102,000	60,000	90,000
動力部門費	⊙ 600kwh 30,000	能力 9,000kwh 24,000	⊙ 150kwh 7,500	能力 13,500kwh 36,000	← 予配@50/kwh	← 配賦しない
製造部門費	92,000	142,000	100,500	138,000		
	問1.1.の 288,000 ÷ 12 カ月		問1.1.の 432,000 ÷ 12 カ月			

(2) 差異分析

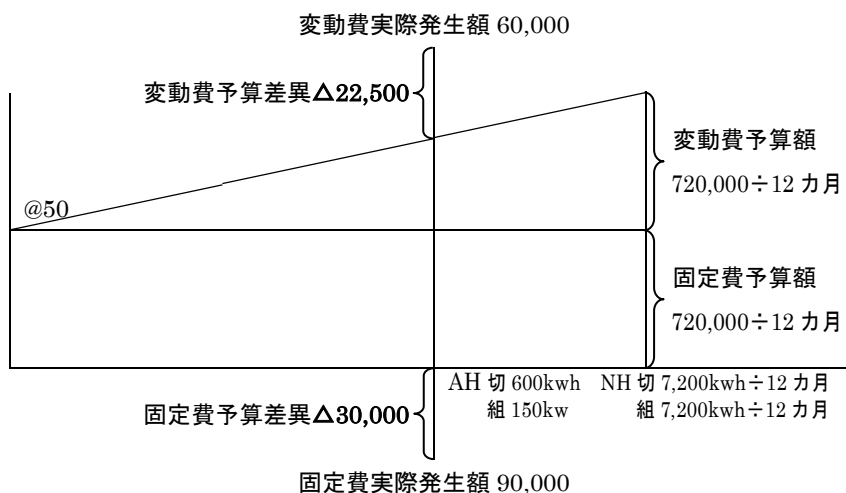
① 切削部門のシュラッター図



② 組立部門のシュラッター図



③ 動力部門のシュラッター図



2. 解答数値の算定

切削部門：変動費予算差異+8,000、固定費予算差異+32,000、操業度差異Δ29,000

組立部門：変動費予算差異Δ78,500、固定費予算差異Δ32,000、操業度差異Δ84,800

動力部門：変動費予算差異Δ22,500、固定費予算差異Δ30,000

20 単一基準配賦法+実際配賦の欠点とその解消

[短 B/論 A]

単一基準配賦法+実際配賦の欠点と、その解消案について述べなさい。

- (1) 単一基準配賦法によると、関係部門の補助部門用役消費能力に依存しているはずの固定費を、用役消費量に応じて配賦することとなる。これでは、ある特定の関係部門に対する配賦額が、その他の関係部門における補助部門用役消費量の多少によって左右されてしまう。なお、これは複数基準配賦法(21)又は予定配賦(22)を採用することで解消できる。
- (2) 実際配賦によると、補助部門で実際に発生した原価を各部門に配賦することとなる。これでは、各製造部門に対する実際配賦額の中に、補助部門における原価管理活動の良否の影響(予算差異相当分)が混入してしまう。なお、これは予定配賦(22)を採用することで解消できる。

~Master Piece~

☑ 欠点2つを数値例とリンクさせて理解！

- 20(1) 単一ゆえ、固定費について、他部門の影響 ⇄ 21 複数 or 22 予定配賦で解消
- 20(2) 実際配賦ゆえ、変動費と固定費について、補助部門の影響 ⇄ 22 予定配賦で解消

[数値例]

1. 当工場では、製造部門として切削部門及び組立部門を、補助部門として動力部門を設定し、製造間接費の配賦を、部門別に機械運転時間に基づく予定配賦率を用いて行っている。

2. 月間予算データ (4月の実績を予算として利用している)

(1) 部門費額

切削部門		組立部門		動力部門	
変動費	固定費	変動費	固定費	変動費	固定費
90,000 円	150,000 円	80,000 円	70,000 円	60,000 円	60,000 円

(2) 動力消費量及び消費能力

	切削部門	組立部門
動力消費量	600kwh	600kwh
動力消費能力	600kwh	600kwh

(3) 基準操業度

	切削部門	組立部門
機械運転時間	3,000 時間	2,000 時間

3. 月間実績データ (5月)

(1) 部門費額

切削部門		組立部門		動力部門	
変動費	固定費	変動費	固定費	変動費	固定費
62,000 円	118,000 円	93,000 円	102,000 円	60,000 円	90,000 円

(2) 動力消費量及び消費能力

	切削部門	組立部門
動力消費量	600kwh	150kwh

(3) 実際操業度

	切削部門	組立部門
機械運転時間	2,500 時間	400 時間

MP #4_部門別計算

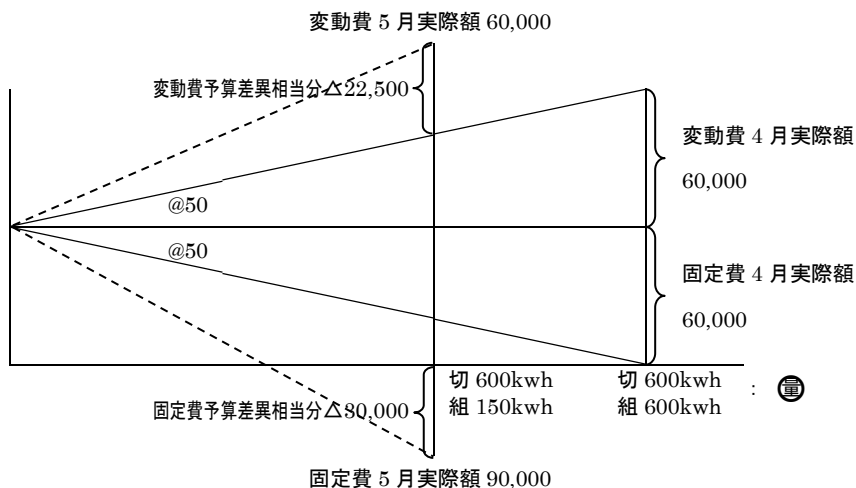
[4月予算部門費配賦表(単一基準)]

摘要	切削部門		組立部門		動力部門	
	変動費	固定費	変動費	固定費	変動費	固定費
部門費	90,000	150,000	80,000	70,000	60,000	60,000
動力部門費	⊕ 600kwh 30,000	⊕ 600kwh 30,000	⊕ 600kwh 30,000	⊕ 600kwh 30,000	← @50/kwh	← @50/kwh
製造部門費	120,000	180,000	110,000	100,000		

[5月実際部門費配賦表(単一基準+実際)]

摘要	切削部門		組立部門		動力部門	
	変動費	固定費	変動費	固定費	変動費	固定費
部門費	62,000	118,000	93,000	102,000	60,000	90,000
動力部門費	⊕ 600kwh 48,000	⊕ 600kwh 72,000	⊕ 150kwh 12,000	⊕ 150kwh 18,000	← 実配@80/kwh	← 実配@120/kwh
製造部門費	110,000	190,000	105,000	120,000		

[動力部門のシュラッター図]



21 複数基準配賦法+実際配賦の欠点とその解消

[短 B/論 A]

複数基準配賦法+実際配賦の欠点と、その解消案について述べなさい。

20(1)の欠点は解消できたが...20(2)の欠点はまだ残ってしまう。

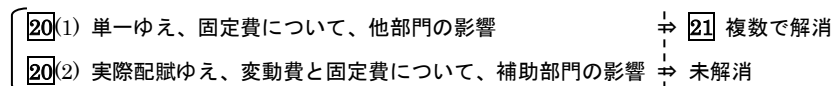
▽ つまり、

実際配賦によると、補助部門で実際に発生した原価を各部門に配賦することとなる。これでは、特定の製造部門に対する実際配賦額の中に、補助部門における原価管理活動の良否の影響が混入してしまう(20(2)と同じ)。

なお、これは予定配賦(22)を採用することで解消できる。

~Master Piece~

☑ 解消された欠点と未解消の欠点を数値例とリンクさせて理解!



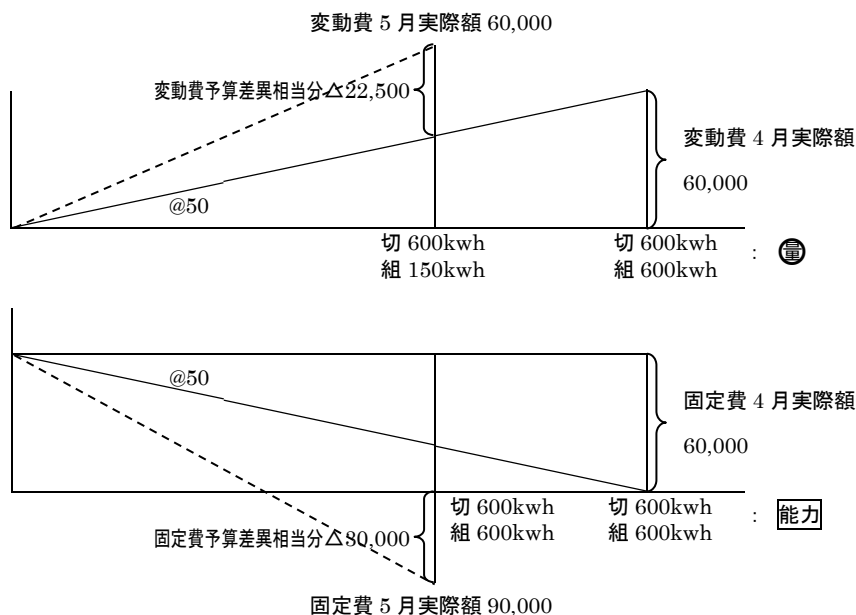
[4月予算部門費配賦表 (複数基準)]

摘要	切削部門		組立部門		動力部門	
	変動費	固定費	変動費	固定費	変動費	固定費
部門費	90,000	150,000	80,000	70,000	60,000	60,000
動力部門費	⊕ 600kwh	能力 600kwh	⊕ 600kwh	能力 600kwh	← @50/kwh	← @50/kwh
製造部門費	30,000	30,000	30,000	30,000		
製造部門費	120,000	180,000	110,000	100,000		

[5月実際部門費配賦表 (複数基準+実際)]

摘要	切削部門		組立部門		動力部門	
	変動費	固定費	変動費	固定費	変動費	固定費
部門費	62,000	118,000	93,000	102,000	60,000	90,000
動力部門費	⊕ 600kwh	能力 600kwh	⊕ 150kwh	能力 600kwh	← 実配@80/kwh	← 実配@75/kwh
製造部門費	48,000	45,000	12,000	45,000		
製造部門費	110,000	163,000	105,000	147,000		

[動力部門のシュラッター図]



22 単一基準配賦法+予定配賦の欠点とその解消

[短 B/論 A]

単一基準配賦法+予定配賦の欠点と、その解消案について述べなさい。

20(1)及び(2)の欠点を共に解消できたが...新たな欠点(3)が生じてしまう。

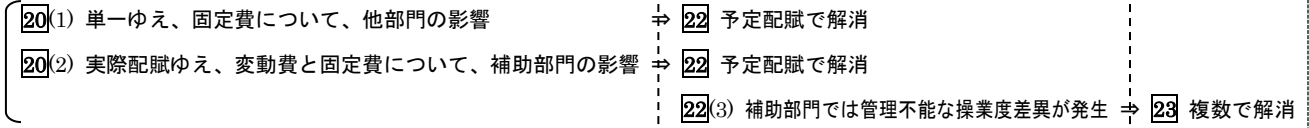
▽ つまり、

(3) 単一基準配賦法によって補助部門費を関係部門に予定配賦すると、補助部門に操業度差異が生じる。補助部門の実際操業度は、製造部門が補助部門用役をどれほど消費するかに依存している以上、補助部門にとって管理不能である。このような補助部門にとって管理不能な操業度差異が補助部門に残ってしまうのは原価管理上妥当ではない。

なお、これは複数基準配賦法(23)を採用することで解消できる。

~Master Piece~

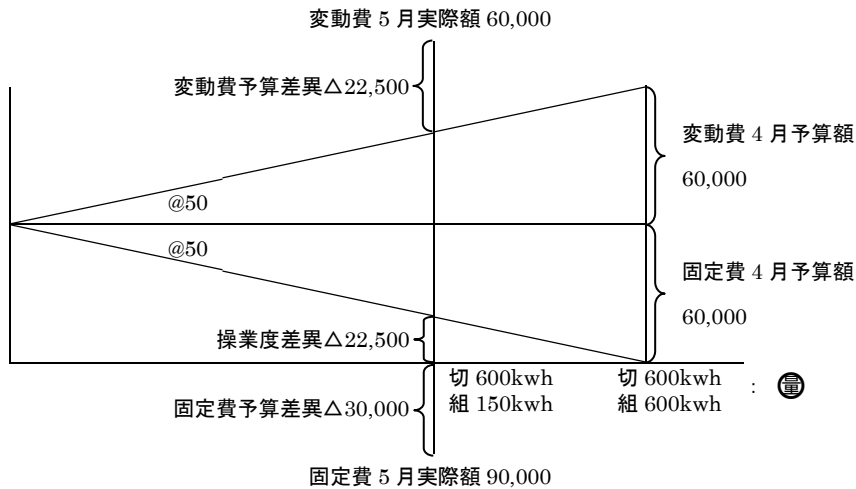
☑ 解消された欠点と新たに生じる欠点を数値例とリンクさせて理解!



[5月実際部門費配賦表 (単一基準+予定)]

摘要	切削部門		組立部門		動力部門	
	変動費	固定費	変動費	固定費	変動費	固定費
部門費	62,000	118,000	93,000	102,000	60,000	90,000
動力部門費	⊖ 600kwh 30,000	⊖ 600kwh 30,000	⊖ 150kwh 7,500	⊖ 150kwh 7,500	<- 予配@50/kwh	<- 予配@50/kwh
製造部門費	92,000	148,000	100,500	109,500		

[動力部門のシュラッター図]



23 複数基準配賦法+予定配賦の利点

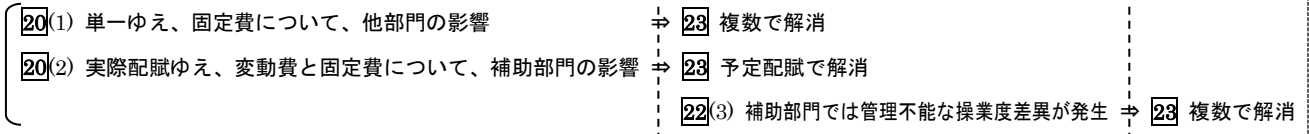
[短 B/論 A]

複数基準配賦法+予定配賦の利点について述べよ。

- (1) 複数基準配賦法によると、補助部門の変動費と固定費をそれぞれ適切と考えられる配賦基準を使用して配賦するため、ある特定の関係部門に対する配賦額は、その他の関係部門における補助部門用役消費量の多少によって左右されず、原価管理ないし責任会計上において適切な配賦が行える。(20)(1)を解消)
- (2) 予定配賦によると、あらかじめ設定された予定配賦率を用いて各部門に配賦することとなるため、各製造部門に対する配賦額の中に、補助部門における原価管理活動の良否の影響が混入してしまうことを防止できる。(20)(2)を解消)
- (3) 複数基準配賦法+予定配賦によると、固定費予算額が関係部門に配賦されることから、補助部門に操業度差異が残らない。(22)(3)を解消)

~Master Piece~

☑ 解消された欠点を数値例とリンクさせて理解！



[5月実際部門費配賦表 (複数基準+予定)]

摘要	切削部門		組立部門		動力部門	
	変動費	固定費	変動費	固定費	変動費	固定費
部門費	62,000	118,000	93,000	102,000	60,000	90,000
動力部門費	⊕ 600kwh 30,000	能力 600kwh 30,000	⊕ 150kwh 7,500	能力 600kwh 30,000	予配@50/kwh ←	配賦しない ←
製造部門費	92,000	142,000	100,500	132,000		
	4月の予算と同額		4月の予算と同額			

[動力部門のシュラッター図]

